

北越戊辰戦争に大活躍の農民隊！岡方組正気隊と北辰隊

■ どちらの軍で戦う？新発田藩の動き

1868（慶応4）年4月、三国峠を守っていた会津軍と、新政府軍が激突し、北越戊辰戦争が始まりました。

東北の米沢や仙台などの諸藩は、新政府軍に対抗するため、5月に奥羽列藩同盟（後に越後諸藩も加わって、奥羽越列藩同盟）を結びました。新発田藩は、米沢藩の強硬な申し入れに屈して、奥羽越列藩同盟に参加したものの、じつは態度を決めかねていました。

しかし、7月25日、新政府軍が太夫浜・松ヶ崎浜に上陸すると、新発田藩は直ちに同盟を離脱して、新政府軍として行動することを決定しました。領内の名主・庄屋へは「奥羽不義の徒を打ち破れ」と布告を出しています。

そして、勤皇の志を持つ名主や庄屋は、農民達を組織しました。各地で、新政府軍に味方する「勤皇草莽隊」が自発的に結成されました。北区では岡方組正気隊や北辰隊が結成されています。



岡方組正気隊隊長 曾我士郎の墓遠景

■ 岡方組正気隊

藩の布告にこたえ、岡方組大庄屋曾我士郎（長左衛門）は、長戸呂村名主前田又之丞、大月興野（大月）名主佐藤敏三郎、山飯野新田（浦木）の漢学者 曾我簡堂らと相談して、7月28日に岡方組正気隊41名を組織しました。隊の名称は、幕末期に勤皇派の志士が愛唱した、水戸藩 藤田東湖の『正気歌』によったものと思われまます。

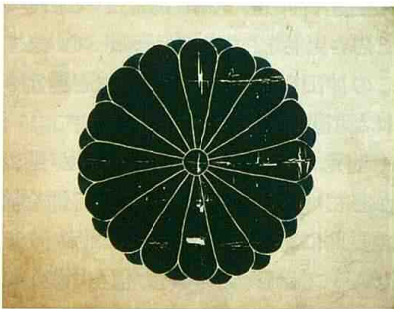
岡方組正気隊は新発田組正気隊、五十公野組正気隊とともに、8月初旬から新発田藩の統制下で、米沢・会津方面に従軍し、警備や物資の輸送にあたりました。9月22日の会津藩降伏後には、市街警備などのため会津若松に入りました。引き上げの命令が出ると、10月6日に新発田に凱旋し、その後、隊は解散し、隊員は帰村しました。



曾我士郎の墓（十一）
戊辰戦争後は、新潟県に奉職し、1890（明治23）年、出張先の東京で亡くなりました。

■ 北辰隊

北辰隊は下興野新田（葛塚）の庄屋遠藤七郎によって組織されました。「北辰隊」という名前は戊辰戦争の後、長州藩士 前原一誠によって付けられたと言われています。隊員は、出身の分かっている152名のうち星野帰一、越三作（斉藤治忠）など下興野新田の人が82名、嘉山の人が3名など葛塚周辺の人が過半数を占めていました。



北辰隊 隊旗（市指定文化財）

1868（慶応4）年6月、この遠藤率いる農民隊が初めて記録に現れます。新発田藩主が奥羽越列藩同盟に従う意志を表すため、下関（関川村）に出陣していた米沢藩主を訪問することになった時のことです。藩主が米沢藩の人質となることを恐れた多くの農民・町民はその行く手を阻止しました。この時に最も活躍をしたのが遠藤の率いる農民隊で、その数は

1,200人だったとも伝えられています。

7月、新政府軍が太夫浜・松ヶ崎浜に上陸すると、直接松ヶ崎へ出かけ、長州藩干城隊に所属しました。

8月1日に新潟で戦い、14日の角石原（新発田市）の戦いでは先鋒隊として会津軍と激しく戦いました。この戦いで遠藤率いる農民隊は4名の戦死者と重軽傷7名を出し、隊長の遠藤自身も軽傷を負いました。

戊辰戦争後の11月、北辰隊は佐渡に渡って、守衛などにあたり、翌年8月に葛塚に戻りました。また、1870（明治3）年2月には、上京して第三遊軍に編入され東京の警護につきましたが、9月に解隊が認められ、全員帰郷しました。

その後、北辰隊は警察的な用務にかり出されることはありましたが、明治新政府の官吏として採用されることはありませんでした。



小隊旗と肩章など（市指定文化財）